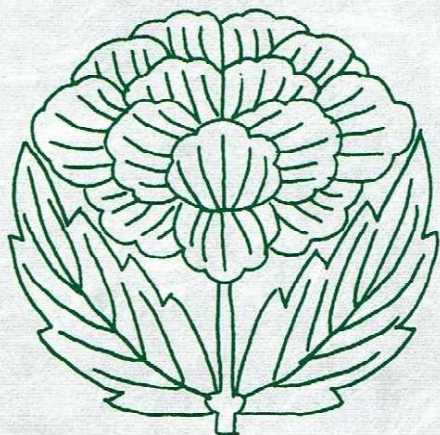


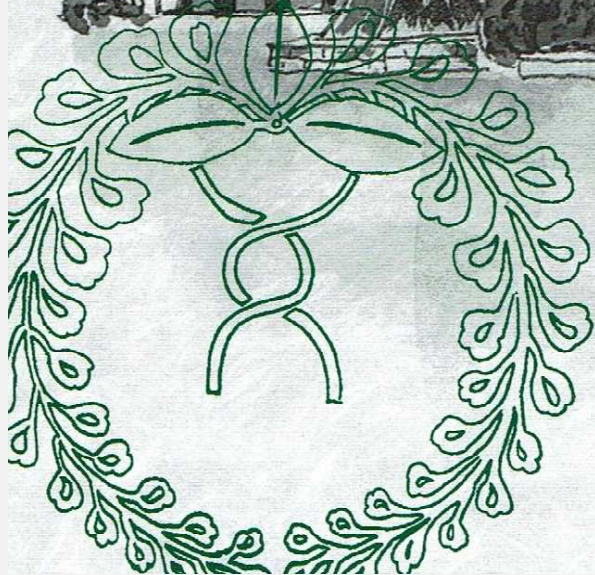
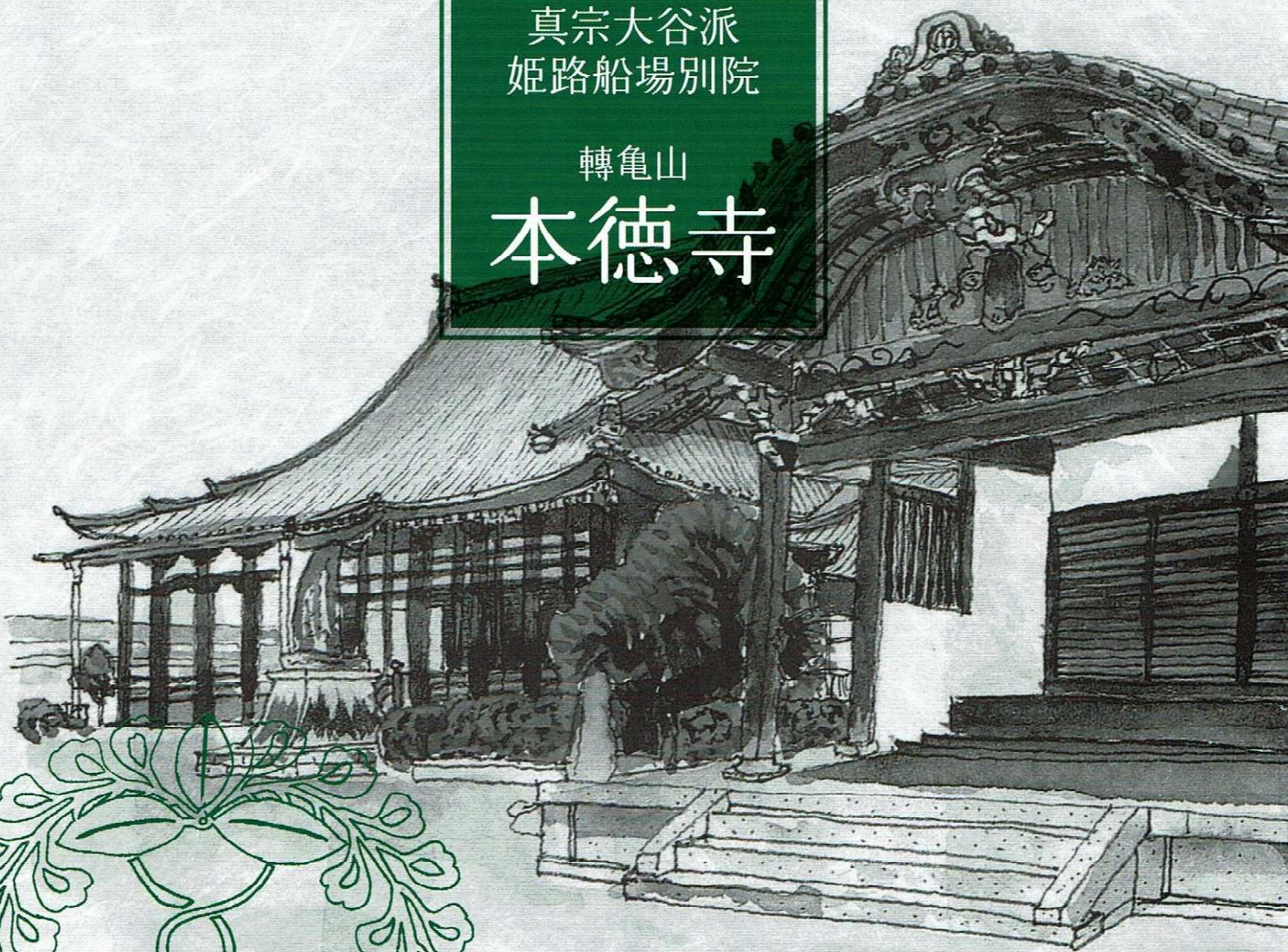
英賀から亀山そして船場へ



真宗大谷派
姫路船場別院

轉亀山

本徳寺





姫路船場別院 本徳寺の由来

「船場御坊」の名前で地域に親しまれている船場本徳寺は、「真宗大谷派^{※1} 姫路船場別院本徳寺」といふ(山号は、「轉亀山」)。本徳寺のはじまりは、蓮如上人(1415~1499)がその晩年、下間空善をはじめとする弟子たちを播磨に派遣したことによる。空善らは英賀の浦^{※2}に道場を建立し布教した。この道場が二代実玄、三代実円の頃には「本徳寺(英賀)」と称し、本願寺の御坊寺院として播磨教団の中核となった。しかし羽柴秀吉の中国攻め(1577~1582)による播磨侵攻で英賀城が落城(1580)すると、秀吉により英賀から亀山^{※3}に移転させられる。さらに慶長年間(1596~1615)に本願寺が東西に分派した際、亀山本徳寺は、はじめ東派^{※4}に属したが後に東本願寺教如上人(1558~1614)と姫路藩主池田輝政との間に確執が生じ、西派^{※5}に転じた。その後、池田家が没落し代わって姫路藩主となった本多忠政が元和4年(1618)に船場の寺地^{※6}を東本願寺宣如上人(1604~1658)に寄進し、教珍が入寺した。ここに船場本徳寺が成立し、現在に至る四百年の歴史を刻み始める。

船場本徳寺は現在、真宗大谷派内における55別院(国内52、海外3)の一別院に数えられ、播磨地域において「地域における教化の中心道場としての役割」を担いつつ、山陽教務所(地方宗務機関)と連携して「同朋社会実現」へ向けた運営がなされている。

※1 真宗大谷派は東本願寺(正式名称「真宗本願」)を本山とする宗派。本尊は阿弥陀如来、宗祖は親鸞聖人(1173~1262)。※2 「英賀本徳寺」は現在の兵庫県姫路市飾磨区英賀の地、夢前川下流域河川敷辺りに位置。※3 現在の兵庫県姫路市亀山。浄土真宗本願寺派の寺院として現存する「亀山本徳寺」の成立。※4 真宗大谷派(通称「お東さん」)。※5 浄土真宗本願寺派(通称「お西さん」)。※6 現在の兵庫県姫路市地内町。

本徳寺諸殿



① 本堂



② 大玄関



⑤ 行在所

元は安政年間に建設された書院で明治天皇が西国行幸(明治18年)の際、宿所として使用され「行在所(あんざいしょ)」と呼ばれるようになる。その後の火災(1932)などで焼失した部分が多い建物だが、趣きを残した形で修復されており一見の価値ある書院である。



⑥ 白書院

建立年代は決して古くはないが広い二間造りの和風建築で、別院での打合せや行事での寺院控室として使用されている。またその雰囲気が好まれ、外部団体の勉強会などでも使用されている書院である。



③ 表門(山門)



④ 鐘楼

現在の本堂は、享保三年(1718)の完成と伝わる堂々たる大伽藍である。約300年間、様々な天災や戦災に耐え、現在でも主に別院や教区・幼稚園行事で使用されている。内陣には阿弥陀仏が安置され、播磨地域における真宗信仰の中心としての役割を果たし続けている。平成18年(2006)に本堂・表門・鐘楼・大玄関の四棟が姫路市重要文化財に指定された。



⑦ 同朋会館

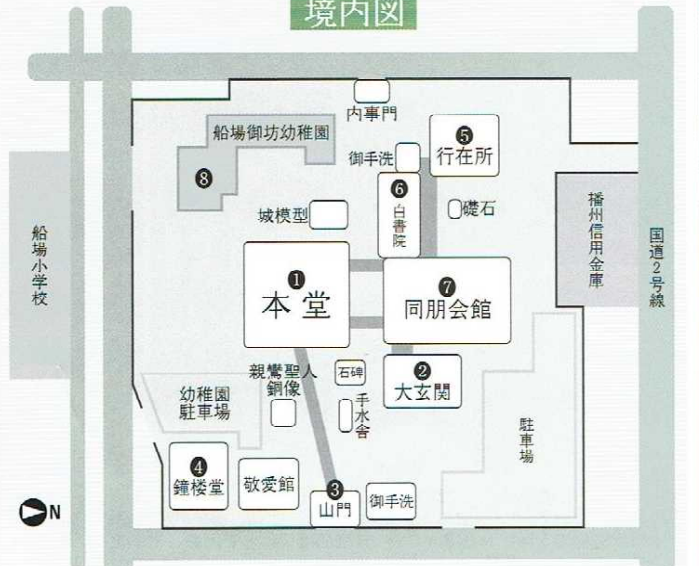
山陽教務所(宗派出張所)と本徳寺寺務所が併設し、会議や講演会が行えるよう講堂などが設けられている。山陽教区親鸞聖人750回御遠忌事業として建設された。(2014年竣工)



⑧ 船場御坊幼稚園

2016年に創立100周年を迎えた姫路市内で最も古い幼稚園。本徳寺の管理運営を経て、現在は学校法人としての歩みを進めている。園舎は境内北側に位置していたが、2013年、現在地(境内南西)に移転した。園舎入口に立つ門柱(石柱)は旧園舎(戦前)からのもので、戦災を乗り越えた石柱として園児達に歴史を語りかけている。

境内図



本徳寺 略年表

- 1492(明応元)年 本願寺蓮如上人(八代)、下間空善ら弟子五人を播磨国へ派遣。空善ら、英賀の浦に道場を建立し、布教活動を行う。
- 1493(明応二)年 蓮如上人、空善に方便法身尊像(絵像本尊)を下付する(寺号「本徳寺(英賀)」を称するという)。
- 1515(永正十二年)年 英賀本徳寺本堂(七間四面)が造立される。この後「寺内町」が形成され御坊寺院として西国方面の一大拠点となる。
- 1580(天正八年)年 羽柴秀吉が本徳寺の西の拠点である英賀城を攻略する。
- 1582(天正十年)年 秀吉の姫路城下町整備に伴い、本徳寺が英賀から亀山に移転させられる。寺領三百石をもらうという。
- 1602(慶長七年)年 本願寺の東西分派に伴い亀山本徳寺と播磨教団は、東本願寺に帰属する。
- 1609(慶長十四年)年 姫路藩主池田輝政と東本願寺教如上人(十二代)との間で事情が生じ、本徳寺とその門末すべて、西本願寺に転派させられる(以降、西派「亀山本徳寺」)。
- 1617(元和三年)年 東本願寺宣如上人(十三代)、池田輝政没(1613)による池田家没落後、姫路城主となった本多忠政に対して、播磨国における東本願寺の再興を願う。
- 1618(元和四年)年 姫路藩主本多忠政、池田組屋敷百間四方の土地(船場の現在地)を寄進。本堂建立落慶(十三間四面の本堂という)。落慶法要のため東本願寺宣如上人、播磨に下向する。教珍(本徳寺五代、本善寺顕珍息男)、宣如上人の命により船場本徳寺に入寺し住職となる。《「船場本徳寺」の創立》
- 1650(慶安三年)年 姫路城主松平忠次が、土地(現在の「地内町」)を寄進する。
- 1710(宝永七年)年 姫路藩主榊原政邦、飾西群井ノ口濟岡(現在の御山)に4500坪の土地を寄進。本徳寺歴代の廟所を移転安置する。《御山廟所の創設》
- 1718(享保三年)年 本堂再建、十七間四面の大伽藍が完成する。《現本堂の完成》
- 1873(明治6年)年 教団の機構改革により、「御坊」から「管刹」となるが、明治9年同制度が廃止、明治17年には「別院」となる。
- 1885(明治18年)年 8月18日、明治天皇の西国行幸に際して船場本徳寺に立ち寄り、安政年間に建設していた書院を宿所とする。《行在所》
- 1888(明治21年)年 有栖川宮熾仁親王が船場本徳寺に逗留した際、勝珍(本徳寺十七代)の所望により寺号「本徳寺」の額を揮毫する(現本堂に掲額)。
- 1916(大正5年)年 現「船場御坊幼稚園」の前身となる施設が開設される。
- 1932(昭和7年)年 御殿より失火。本徳寺本堂は焼失を免れるも行在所は一部破損。昭和18年にも火災に遭うが本堂焼失は免れる。
- 1945(昭和20年)年 7月3日姫路大空襲。姫路市街が焦土と化す中、本徳寺本堂は焼失を免れる。
- 1969(昭和44年)年 4月25日~28日、「宗祖親鸞聖人七百回法要」を厳修する(本堂内陣等を修復する)。
- 2001(平成13年)年 4月21日・22日、真宗大谷派山陽教区と協賛で「蓮如上人五百回御遠忌法要」を厳修する。
- 2006(平成18年)年 本徳寺の本堂・表門(袖塀・燈籠二基)・鐘楼・大玄関の四棟が姫路市重要文化財に指定される。
- 2008(平成20年)年 4月5日・6日、船場本徳寺を会場に「山陽教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌お待ち受け同朋大会」が厳修される。12月28日、暢心(本徳寺十九代)没。
- 2014(平成26年)年 3月、山陽教区同朋会館姫路が完成する。
10月3~5日、船場本徳寺を会場に「山陽教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」が厳修される。

戦争と本徳寺

英賀に本徳寺があった頃(中世)、秀吉の英賀攻めによる戦禍を被った本徳寺であるが、近代以降では第一次世界大戦時、ドイツ軍捕虜収容所として別院境内が使用されている。その時に収容されたドイツ人捕虜兵が故郷の古城を思い出しながら造ったお城のモニュメントが今も境内に残る(a)。また先の大戦においては市内寺院の梵鐘供出に寺地が利用され(b)、姫路大空襲では焼夷弾により焦土と化する市内にあって、本徳寺諸殿や幼稚園、門前の町並みも焼失した(c)。そのような中、本堂や山門・鐘楼堂は罹災を免れ今日に至っている。又境内に立つ樹齢約300年を数える銀杏の木も戦禍を受けたとされるが、その白い木肌から「戦争の痛ましさ」と毎年四季を彩る姿から「命のたくましさ」を今に語り続けている(d)。



(a)ドイツ人捕虜兵製作の城



(b)供出の鐘 - 昭和18年
(兵庫県立歴史博物館蔵-高橋秀吉コレクション)



(c)焼残った船場御坊東正面 - 昭和20年
(兵庫県立歴史博物館蔵-高橋秀吉コレクション)



(d)銀杏の木

御山廟所

宝永7年(1710)姫路藩主榊原政邦から土地(姫路市井ノ口)の寄進を受け、船場本徳寺境内にあった御廟所を移転したことによる「飛地境内」である。御山境内に建つ本堂と御廟所は、東本願寺大谷祖廟(京都市東山区円山町)を模した造りとなり、御廟所には親鸞聖人・蓮如上人・教如上人からの東本願寺御歴代の分骨、並びに船場本徳寺御歴代住職、さらに真宗に流れをくむ播州一円の御門徒の御遺骨が納められている。また御廟所を中心に約1,800基のお墓があり、春秋の彼岸・盆には多くの参拝者が訪れる場所として知られている。



御山 本堂



御廟所(総墓)



墓所



眺望



〒670-0983 姫路市井ノ口440番地
TEL・FAX 079-292-9110

年中法要・行事

毎日	朝のお勤め	晨朝	午前8時
毎月	御命日のお勤め	先門首 蓮如上人	12・13日 24・25日
		宗祖親鸞聖人・前住職	27・28日
	定例法話	先門首御命日逮夜 親鸞聖人・前住職御命日逮夜	毎月12日 毎月27日
年間	修正会		1月1日
	彼岸会(春)		3月
	蓮如忌		3月24・25日
	親鸞聖人御誕生会		4月1日
	永代経(御山廟所)		4月(例年)
	永代経総経		春頃
	盂蘭盆会・夏の御艾		7月12~15日
	彼岸会(秋)		9月
	報恩講		11月16~18日
	御正忌		11月27・28日
	報恩講(御山廟所)		12月21・22日

※上記各法要は、どなたでもお参りしていただけます。
※各日程は主に本徳寺本堂で行われます(一部別の場所有)

本徳寺

[開門時刻]午前8時 [閉門時刻]午後4時
寺務所(同朋会館内)取扱い時間 午前9時~午後4時



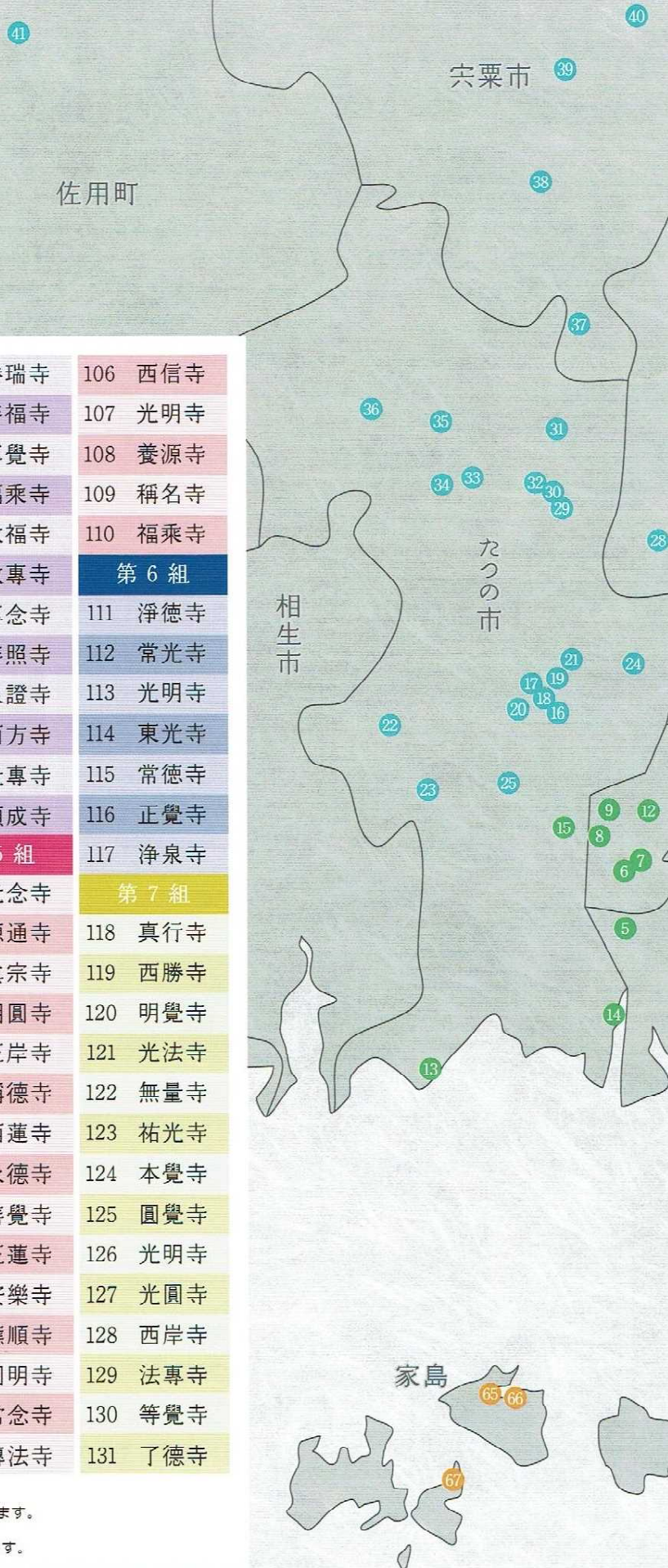
〒670-0044 姫路市地内町1番地
TEL 079-292-0580 FAX 079-228-0415

崇敬区域 親鸞聖人が顕かにされた大切な本願念仏の教えは、全国の真宗寺院とその門徒たちによって今日まで崇敬されてきました。

本願寺第八代蓮如上人を開基とする船場本徳寺は、英賀に建立された時代から、その本願念仏教化のための「播州地方の中心拠点(別院)」を担っていました。船場本徳寺は播磨の真宗寺院・御門徒によって法義相統されて、この地で約400年の歴史を歩んできました。現在は、真宗大谷派山陽教区第1組から第7組が「崇敬区域」として、計131ヶ寺の協力により護持されています。

0 姫路船場別院 本徳寺	25 因念寺	52 法専坊 (延来)	79 勝瑞寺	106 西信寺
第1組	26 法善寺	53 淨圓寺	80 善福寺	107 光明寺
1 善徳寺	27 傳久寺	54 法専坊 (北条)	81 專覺寺	108 養源寺
2 西寶寺	28 妙善寺	55 明泉寺	82 福乗寺	109 稱名寺
3 大善寺	29 願因寺	56 明德寺	83 教福寺	110 福乗寺
4 佛心寺	30 蓮乗寺	57 慶應寺	84 教專寺	第6組
5 徳源寺	31 淨安寺	58 圓光寺	85 專念寺	111 淨徳寺
6 了源寺	32 圓休寺	59 光照寺	86 善照寺	112 常光寺
7 教興寺	33 西願寺	60 善行寺	87 泉證寺	113 光明寺
8 蓮光寺	34 西向寺	61 稱念寺	88 西方寺	114 東光寺
9 正圓寺	35 光宗寺	62 松林寺	89 光專寺	115 常德寺
10 願念寺	36 正行寺	63 龍泉寺	90 願成寺	116 正覺寺
11 淨因寺	37 法性寺	64 西樂寺	第5組	117 淨泉寺
12 西光寺	38 隨陽寺	65 徳號寺	91 光念寺	第7組
13 徳乗寺	39 本源寺	66 長圓寺	92 源通寺	118 真行寺
14 徳正寺	40 本學寺	67 徳圓寺	93 眞宗寺	119 西勝寺
15 乗願寺	41 教岸寺	第4組	94 明圓寺	120 明覺寺
第2組	42 淨蓮寺	68 西福寺	95 正岸寺	121 光法寺
16 圓光寺	43 芳順寺	69 誓福寺	96 稱徳寺	122 無量寺
17 法雲寺	44 光專寺	70 明蓮寺	97 西蓮寺	123 祐光寺
18 龍寶寺	45 西教寺	71 西蓮寺 (山崎)	98 永徳寺	124 本覺寺
19 善龍寺	46 圓證寺	72 興宗寺	99 善覺寺	125 圓覺寺
20 親友寺	47 善休寺	73 圓正寺	100 正蓮寺	126 光明寺
21 西覺寺	48 正覺寺	74 西源寺	101 安樂寺	127 光圓寺
22 佛願寺	49 正願寺	75 福圓寺	102 應順寺	128 西岸寺
23 弘願寺	50 圓徳寺	76 来法寺	103 圓明寺	129 法専寺
24 圓徳寺	51 法林寺	77 西蓮寺 (辻井)	104 常念寺	130 等覺寺
		78 善覺寺	105 傳法寺	131 了徳寺

※ 2017年4月1日現在の別院崇敬寺院を表記しています。
 ※ 番号表記について、第1組より上記名簿掲載順にて通し番号での表記しています。
 ※ 同組内に同名の寺院がある場合のみ、寺院名後に地名を表記しています。
 ※ 地図縮尺の都合上、寺院表示位置が実際の地点から離れている場合があります。



崇敬区域図

